

# 土浦普及センターだより

平成27年8月20日 No.39  
茨城県南農林事務所経営・普及部門  
(土浦地域農業改良普及センター)  
土浦農業改良普及事業推進協議会  
土浦合同庁舎第二分庁舎3階  
土浦市真鍋5-17-26  
電話 029-822-8517  
FAX 029-822-7370  
URL:<http://www.pref.ibaraki.jp/nourin/nourinjimu/kennan/tsuchiura/index.html>

## いばらキッス普及拡大中



写真右上  
「いばらキッス」販促ポスター  
写真左上  
育苗講習会 圃場見学  
写真右下  
育苗講習会 室内講習

いばらキッス育苗講習会として、生産者の圃場見学、育苗管理等についての講習を行いました。生産者間では肥培管理や病虫害防除について、積極的な意見交換が行われました(6/16)。



普及センターでは、今後も生産者の情報交換や学習の機会を積極的に提供し、高品質な「いばらキッス」の生産拡大を推進していきます。

「いばらキッス」は「一般的な品種」とちがとめ」とは栽培管理が少し異なることから、生産者と普及センター等関係機関が協力して栽培技術の普及に取組み、管内でも年々栽培面積が拡大しています。今年は一五戸が栽培に取り組み予定です。また、天敵を利用した害虫防除も広がっており、安全・安心な高品質安定生産にも取組んでいます。

「いばらキッス」は茨城県が育成したオリジナル品種のイチゴです(品種登録平成二四年二月)。糖度が高く、酸味とのバランスが良い濃厚な味と、ジューシーな食感が特長です。県内では九一戸が「いばらキッス」生産に取り組んでおり、市場出荷を中心とした販売形態が多いですが、管内では観光農園や自家直売所などの販売が多いことが特徴です。「いばらキッス」は食味が良いため、リピーターが多く、また観光農園では「いばらキッス」のイチゴ狩りをメインに据えたバスツアーが組まれるなど、産地活性化にも一役買っています。

**表 短期暴露評価導入に伴い、農薬登録が変更され、農薬メーカーが注意喚起を行っている薬剤**

(平成27年6月8日現在、農薬メーカーから変更について情報提供されたもの)

\* 表に記載した農薬以外でも、今後登録が変更される場合がありますので、注意してください



農薬登録の急な変更に注意して下さい！

これまで作物に残留する農薬の安全性については、生涯にわたり毎日摂取し続けても影響が出ないと考えられる一日摂取許容量(ADI)に基づき、長期暴露評価で評価してきました。しかしこれからは、長期暴露評価に加えて、人が一度に多量に

農薬名(屋号抜き商品名)	
オルトラン水和剤	オンコルOK粒剤
家庭園芸用オルトラン水和剤	グランドオンコル粒剤
オルトラン粒剤	ジャッジ箱粒剤
家庭園芸用オルトラン粒剤	オンコル粒剤5
オルトランDX粒剤	オンコルスタークル粒剤
ジェイエース粒剤/スミフェート粒剤	オンダイアエース粒剤
ジェイエース水溶剤/スミフェート水溶剤	オンコルマイクロカプセル
ジェネレート粒剤	オンコル粒剤1/ホームガーデン粒剤
ジェネレート水溶剤	ガーデンホスピタル粒剤
アドバンテージ粒剤	ガゼット粒剤
アドバンテージS粒剤	

お問い合わせ先  
 県南農林事務所経営・普及部門 TEL 029-822-8517  
 茨城県エコ農業推進室 TEL 029-301-3931

変更後の使用方法に関する詳細は、販売店等で配布されるチラシや、メーカーや茨城県エコ農業推進室のホームページ等で確認してください。

食べても農薬による悪影響が出ないと考えられる急性参照用量(ARfD)に基づく短期暴露評価も行うことになりました。  
 このため農薬によっては、『適用作物の削除』や、『使用方法の変更』が行われます。  
 登録変更については、十分な時間的余裕を持って申請されない場合も想定され、こうした場合は、農薬を容器のラベルに表示された使用方法に従って使用しても、変更後の残留基準値を超過する可能性があり得ます。このため、農薬メーカーが変更後の使用方法をチラシ等で情報提供する場合は、変更登録前でも、農薬容器の表示(ラベル)ではなく、変更後の使用方法に基づいて使用して下さい。

表 飼料用玄米の規格(抜粋)

項目	等級		合格
	水分		
最高限度(%)	被害粒		15
	異種穀粒	もみ	25
		麦	3
		もみ及び麦を除いたもの	1
	異物		1

被害粒：発芽粒、病害粒、及び芽くされ粒  
 ※虫害粒、胴割粒、奇形粒、碎粒等は被害粒としない。

一般的に乾燥・調製費は十アールあたり一〜二万円程度かかります。張り込み時の粉水分を二十%以下まで下げること、灯油消費量、電力消費量、乾燥時間が大幅に削減できます。飼料用米は主食用米で求められない食味・外観品質を考慮する必要があります。飼料用米は主食用米で求められないので(表)、倒伏や穂発芽、鳥害が問題ない範囲で、成熟期から約二週間程度収穫を遅らせる「立毛乾燥」を行いましょ。また、乾燥時の温度を高め設定して乾燥効率を高めることも有効です。



圃場で「立毛乾燥」を行い、乾燥コストの低減を！

飼料用米の収穫と乾燥について

表 タマネギバエ・タネバエの防除対策例

有機物施用	完熟したものを扱い、定植20日以上前を目安に施用
防除	防虫ネット等の利用、定植前後の予防的な薬剤処理
残渣等	圃場に放置しない

タマネギバエ・タネバエはネギ・タマネギに発生する害虫の一種で、土中の幼虫(うじ)が茎盤の下部より食入して内部を食害します。幼虫は一株を食い尽くすと隣接株に移動して被害を拡大させていきます。  
 例年四〜六月に発生が多くなり、被害の多い地域では被害が断続的になることもありますが、耕種的な防除も取り入れた体系的な防除を行いましょ。



▲ネギの被害株



タマネギバエ・タネバエについて

表 秋季から冬季の黒星病防除の例

農薬散布	<ul style="list-style-type: none"> <li>・秋季防除の徹底（10月中旬から11月中旬頃まで3回散布）</li> <li>・十分量をムラなく散布</li> </ul>
園内管理	<ul style="list-style-type: none"> <li>・落葉処理の徹底（園外への持ち出し、鋤き込みなど）</li> </ul>
せん定・誘引	<ul style="list-style-type: none"> <li>・秋季せん定（10/20頃）</li> <li>・長果枝先端の切り返し</li> <li>・側枝密度の均平化</li> </ul>

本年は、五月初旬からナシの芽基部に黒星病の病斑が散見された他、果実にも多く見られました。その後の好天により急速な感染拡大は免れましたが、園内に潜在している状況です。

また、平成二〇年以降、黒星病の秋型病斑の発病度は、それ以前に比べてと高い傾向にあります。

秋型病斑は芽基部や葉、果実への感染源となり、黒星病多発を招きます。秋季から冬季に園内の菌密度を下げ、来年の黒星病を減らしましょう。



▲ナシ黒星病の秋型病斑



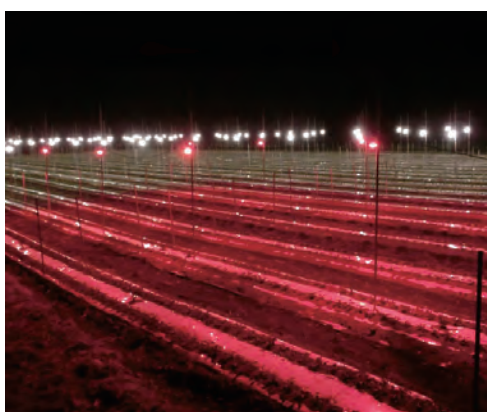
ナシ黒星病を断ち切る



コギク露地電照栽培での赤色LEDの利用について

コギクの露地電照栽培では、一般的に白熱電球が使用されていますが、白熱電球の生産縮小に伴い、代替光源が求められています。近年、耐用年数が長く、消費電力の小さい赤色LEDがコギクの花芽抑制に効果が高く、代替光源として注目されています。

普及センターでは、平成二六年から赤色LEDの効果実証試験を行っており、「精はぎの」で白熱電球と遜色のない花芽抑制と草丈伸長効果が確認されました。平成二七年も、「精はぎの」、「玉姫」で花芽抑制、草丈伸長効果はこれまでのところ白熱電球と同程度であり、代替光源として使用できることが実証されました。



▲赤色LED効果実証試験圃場



農産加工活動に取組むために

農産加工部門を経営に取入れることで新たな収入源となり、経営の柱にすることが出来ます。また、生産物のPR役として、販路拡大につながることも出来ます。

しかし、活動の目的やどのような加工品を作るかなど、事前に活動計画を立てなければ経営の柱にすることはできません。まずは前準備として、次の主な項目について考えてみましょう。

① 目的を掲げる

生産している農産物のおいしい食べ方を発信して消費拡大につなげる、加工品を通じて産地PRにつなげるなどの目的を掲げます。自身の経営をどう発展させたいかを考えてみましょう。

② 納得のいく加工品を作る

自分が納得する加工品を目指して試作を繰返すことが重要です。この時、原材料費がどれくらいかかるか把握しましょう。

③ 生産量と販売量を考える

製造にかかる原材料費を把握し、どれくらい販売することができれば利益につながるかを考えましょう。

④ パッケージデザインを考える

パッケージは無言のセールスマンとも例えられます。材料の農産物をイメージさせる色使いや商品名など、手にとってもらえるパッケージ

デザインを考えましょう。

【加工施設づくり】

実際に加工品を生産して販売するには、営業許可申請を行い、県が定めた施設基準に合致した施設を建て、営業許可を受けることが必要です。営業許可を受けるには、保健所への申請・認可が必要となります。

【農産加工センター】

茨城県農産加工指導センターでは、加工品開発を支援するために農産加工研修会を開催しているほか、「オープンラボトリー（開放実験室）」を設置しています。農産加工指導センタースタッフのアドバイスを参考にしながら試作を行うことができます。

普及センターでは、農産加工研修会やオープンラボトリーの受付をしております。ご希望の方はお問い合わせください。また、加工起業や加工技術に関するご相談についても、お電話や現地対応にて承ります。お気軽にご相談ください。



▲ブラックベリージャム(左)とドライフルーツ(右)の試作の様子

新認定農業三士及び  
退任者の紹介

今年度新たに以下の皆さんが農業三士として茨城県知事の認定を受けました。

女性農業士

○石岡市 堀口 志保氏

(露地野菜十養鶏(採卵))



四〇品目以上の野菜を栽培し、全量を野菜セットとして、ネット販売しています。

す。農園に消費者を招いて収穫祭等のイベントを開催し、野菜の生産現場について知ってもらえるように工夫しています。

○石岡市 宮崎 由佳氏

(露地野菜)



春秋キャベツを軸とし、夏季に加工トマト、冬季にニンジン栽培し、高品質な野菜生産に取り組んでいます。農外からの新規参入の経験を生かし、今後地域のアドバイザーとしての活躍が期待されます。

青年農業士

○石岡市 神生 潤一氏

(施設花き)



新技術を積極的に導入し、バラの高品質安定生産に取り組んでいます。また、自家直売所や、生花店への直接販売なども行っています。過去に後継者組織YACの会長を務めるなど、地域のリーダーとして活躍しています。

○かすみがうら市 坂 嘉隆氏

(苗木)



多様な樹種の苗木生産に、陸稲との輪作を導入し、安定した生産と経営に取り組んでいます。後継者組織かすみがうら市4日クラブでは、前年度に会長を務め、会員へのアドバイザーとして活躍しています。

平成28年度 茨城県立農業大学校入学生募集  
農業の実践力を養います。大学への編入資格も得られます。

募集人員等

区分	学科名	募集人員	受験資格	修業年限	専攻コース
学 科	農 学 科	40名	高校等を卒業した者又は平成28年3月に卒業若しくは修了見込みの者	2年	普通作・露地野菜・果樹
	畜 産 学 科	10		2年	
	園 芸 学 科	30		2年	施設野菜・花き
研 究 科		10	農業大学校卒又は短大等卒以上若しくは卒業見込みの者	2年	作物・園芸・畜産

願書受付・入学試験

試験区分	願 書 受 付 期 間	試 験 日	選 抜 方 法
推薦入試 (各学科)	平成27年9月30日(水)～10月15日(木)	平成27年10月27日(火)	小論文 口述試験 (個別面接)
一 般 入 試 (各学科)	前期 平成27年11月16日(月)～12月8日(火)	平成27年12月16日(水)	筆記試験 口述試験 (個別面接)
	後期 平成28年2月5日(金)～2月24日(水)	平成28年3月4日(金)	
研 究 科 一般入試	平成27年11月16日(月)～12月8日(火)	平成27年12月16日(水)	筆記試験 口述試験 (個別面接)

授業料等

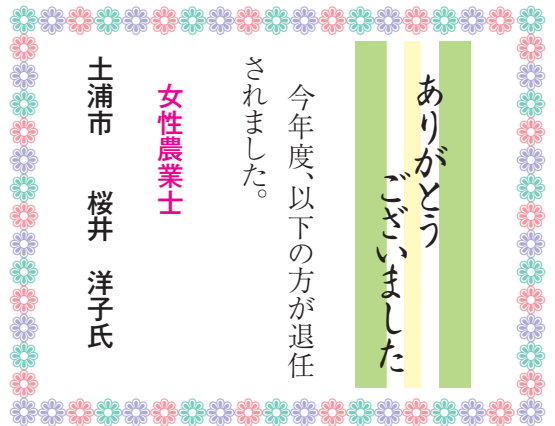
- ・入学試験手数料(2,200円)、入学金(5,650円)、授業料(年118,800円)、自治会費他
- ・学科1年生は全寮制(1人食費月額約30,000円)、学科2年生及び研究科は希望入寮制

問い合わせ先

〒311-3116 東茨城郡茨城町長岡4070-186  
茨城県立農業大学校 入試事務局 TEL029-292-0010

農大ホームページ 農業総合センター農業大学校/茨城県

検 索



ありがとうございます

ございました

今年度、以下の方が退任されました。

女性農業士

土浦市 桜井 洋子氏

いばらき営農塾は、就農して間もない方や、これから就農する方が、講義や実習を通して基礎的な農業技術を学ぶことができる、県立農業大学校で開講している研修です。毎年、四コースを開講しています。県立農業大学校のホームページから申込用紙をプリントできます。希望される方は普及センターまでご連絡ください。

いばらき営農塾の御案内